

環境報告書

2021



室蘭工業大学
MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

国立大学法人 室蘭工業大学

目次

学長あいさつ	．．．．	3
--------	------	---

1 大学概要	．．．．	4
--------	------	---

2 環境に関する基本方針	．．．．	11
--------------	------	----

3 環境マネジメントシステム	．．	12
----------------	----	----

4 環境配慮実施計画	．．．．	13
------------	------	----

5 環境負荷実績	．．．．	14
----------	------	----

6 環境配慮活動	．．．．	17
----------	------	----

7 地域との連携	．．．．	18
----------	------	----

8 関係法令、環境規制への対応	．．．	19
-----------------	-----	----



【報告の対象範囲】

対象範囲：室蘭工業大学（職員宿舎・明德寮・明凜館・留学生宿舎2は除く）

期間：2021年4月1日～2022年3月31日

室蘭工業大学は「地域貢献」を大きなキーワードとして掲げ、北海道の課題解決は日本のそして世界の課題解決につながると考えて、教育・大学改革に取り組んでいます。

本学は、自然豊かなものづくりのまち室蘭の環境を生かして、産業界で活躍しつづける幅広い理工系人材を育てるべく教育改革を行い、工学部から理工学部へと大きく進化して、4年目となります。

ものごとの本質をつかみ、探究心を養うべく自然科学・理工学教育を全学的に充実させ、さらにICTやAIの本質を理解して使いこなし、もの・価値づくりに貢献できる学生諸君を育てる工業大学ならではの情報教育を推進しています。これにより、「確かな研究力をベースとした教育力」で北海道を世界水準の価値創造の場へと導くことを目指しています。

さて、近年では世界的にカーボンニュートラルを宣言する国々や企業が増えており、我が国でも2050年までにカーボンニュートラルを達成する方針を表明しました。この流れを受けて2021年7月には188の大学等が参加する「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」が地域の脱炭素化への貢献や産学官連携強化を目指す場として設立され、本学もこれに参加することとなりました。

この度、本学の環境に関する取組をまとめた環境報告書を作成しました。

本学では以前より環境に関する基本方針を定め、地球環境の維持・保全・改善に努めてまいりましたが、この環境報告書をご覧いただき、本学の活動についてのご理解を深めていただくと幸いです。

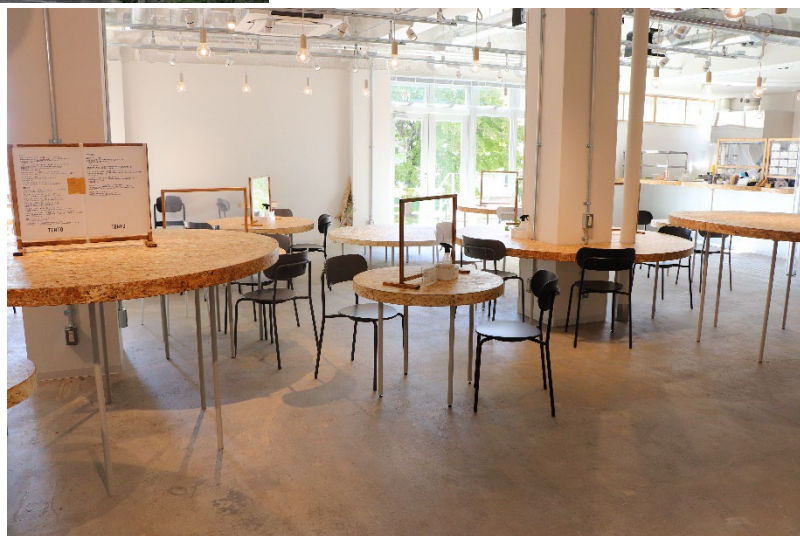


室蘭工業大学長
空閑良壽

1 大学概要

大学名 国立大学法人室蘭工業大学
所在地 〒050-8585
北海道室蘭市水元町27番1号
敷地面積 215,063m²
延床面積 79,219m²
沿革 昭和24年5月 室蘭工業大学設立
平成16年4月 国立大学法人室蘭工業大学となる

2022年 (令和4年) 5月1日現在



1 大学概要

室蘭工業大学の理念と目標

—創造的な科学技術で夢をかたちに—

理 念

室蘭工業大学は、自然豊かなものづくりのまち室蘭の環境を活かし、総合的な理工学教育を行い、未来をひらく科学技術者を育てるとともに、人間・社会・自然との調和を考えた創造的な科学技術研究を展開し、地域社会さらには国際社会における知の拠点として豊かな社会の発展に貢献します。

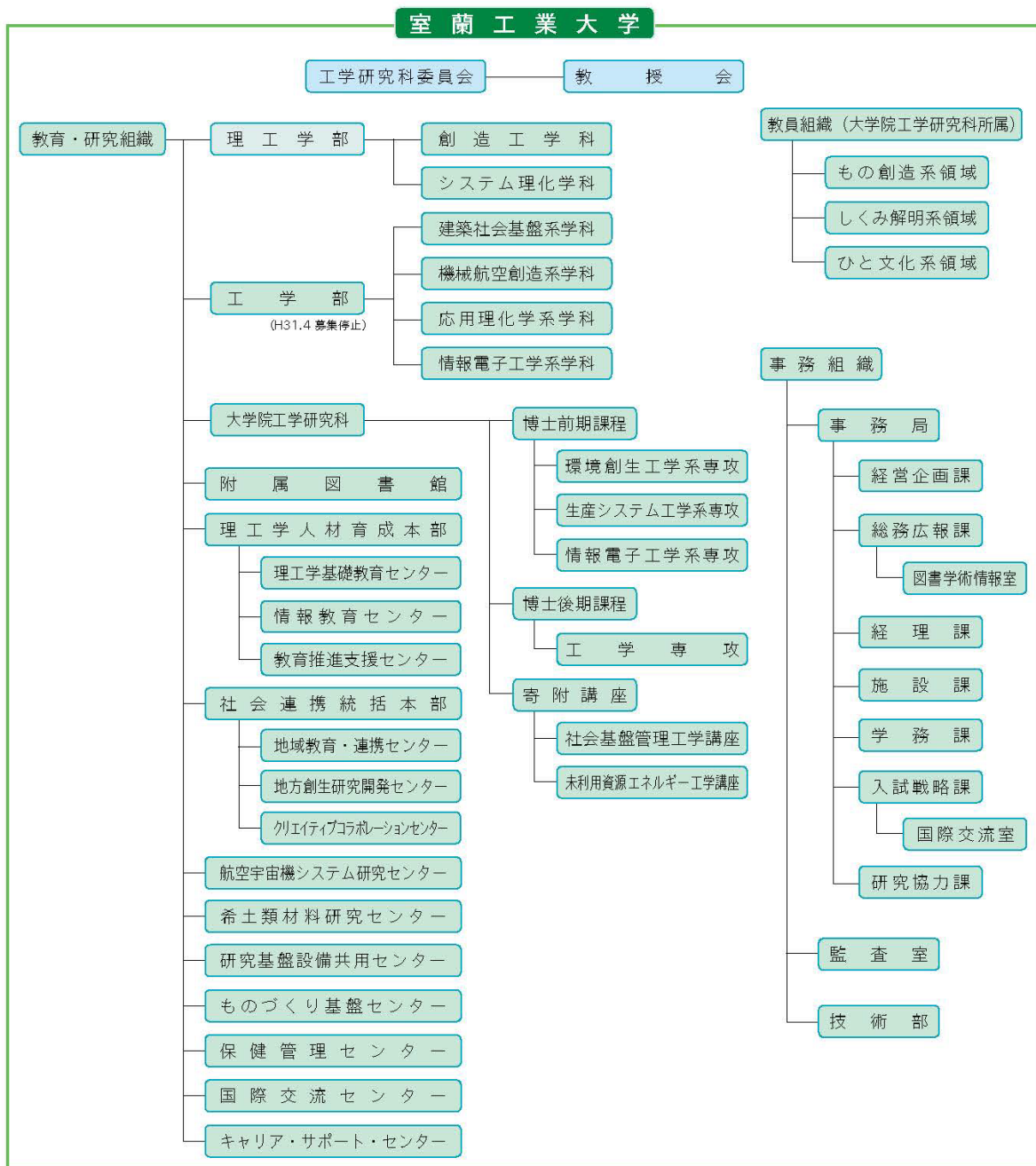
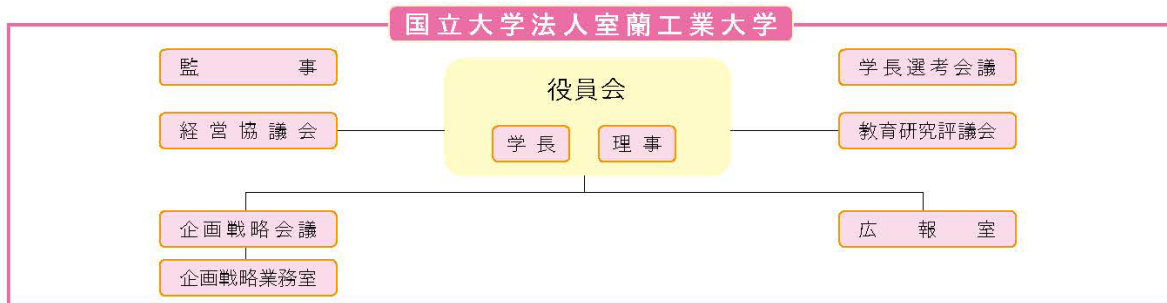
目 標

- 1 室蘭工業大学は、学生一人ひとりの多様な才能を伸ばし、幅広い教養と国際性、深い専門知識と創造性を養う教育を行います。
- 2 室蘭工業大学は、総合的な理工学に基づく教育を展開し、未来をひらく創造的な科学技術者を育成します。
- 3 室蘭工業大学は、真理の探究と創造的な研究活動を推進し、科学技術の発展に貢献します。
- 4 室蘭工業大学は、地球環境を慈しみ、科学技術と人間・社会・自然との調和を考えた研究を展開します。
- 5 室蘭工業大学は、学術研究の成果を地域・国際社会へ還元するとともに、産官学連携を推進し、豊かな社会の発展に貢献します。
- 6 室蘭工業大学は、国際的な共同研究や学術交流を積極的に推進し、世界の発展に貢献します。
- 7 室蘭工業大学は、絶えざる発展を目指し、自主自律と自己責任の精神をもって大学運営にあたります。
- 8 室蘭工業大学は、開かれた大学として情報を積極的に公開し、社会への説明責任を果たします。

1 大学概要

組織・機構

■ 組織図



1 大学概要

役職員

■ 役職員数

役員現員表

(令和4年5月1日現在)

部 局	区 分	学 長	理事常勤	理事非常勤	監事常勤	監事非常勤	計
学	長	1					1
理	事		3				3
監	事					2	2
	計	1	3			2	6

部局別現員表

(令和4年5月1日現在)

部 局	区 分	副学長・ センター長等	教 授	准教授	講 師	助 教	小 計	事務職員・ 技術職員等	計
副 学 長		(4)					(4)		(4)
もの創造系領域			29	29	2	16	76		76
しくみ説明系領域			20	26		15	61		61
ひと文化系領域			12	13	2	2	29		29
附属図書館		(1)					(1)		(1)
保健管理センター		(1)					(1)	1	1 (1)
国際交流センター		(1)		(2)			(3)		(3)
キャリア・サポート・センター		(1)					(1)		(1)
航空宇宙機システム研究センター		(1)		(1)		(1)	(3)		(3)
ものづくり基盤センター		(1)					(1)		(1)
希土類材料研究センター		(1)	(1)	(1)			(3)		(3)
研究基盤設備共用センター		(1)					(1)		(1)
社会連携統括本部		(1)					(1)		(1)
地域教育・連携センター		(1)				(1)	(2)		(2)
地方創生研究開発センター		(1)		(1)			(2)		(2)
クリエイティブコラボレーションセンター		(1)		(1)		(1)	(3)		(3)
理工学人材育成本部		(1)					(1)		(1)
理工学基礎教育センター		(1)					(1)		(1)
教育推進支援センター		(1)					(1)		(1)
情報教育センター		(1)		(1)		(2)	(4)		(4)
技 術 部		(1)					(1)	22	22 (1)
事 務 局							(0)	76	76
	計	(21)	61 (1)	68 (7)	4 (0)	33 (5)	166 (34)	99	265 (34)

(注) () は兼務等を示す

特任教員

(令和4年5月1日現在)

区 分	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	計
特 任 教 員	7	2	1	1	11

■ 若手研究者等の採用

(令和3年度)

区 分	資 格	採用者数
ティーチング・アシスタント (TA)	博士前期課程	360
リサーチ・アシスタント (RA)	博士後期課程	34
非常勤研究員	P D	8
客員教員	—	12
その他研究員	—	2
計	—	416

1 大学概要

学生の状況

■ 学生定員及び現員

理工学部・工学部

(令和4年5月1日現在)

学部	学 科 / コース		入学 定員	編入学 定 員	総定員	現 員					学科計
						1年次	2年次	3年次	4年次	計	
理工学部	創 造 工 学 科	昼 間 コース	325	25	1,350	333 (33) <8>	332 (45) <9>	353 (38) <10>	348 (49) <16>	1,366 (165) <43>	1,539 (178) <43>
		夜間主 コース	40		160	41 (1)	42 (5)	45 (4)	45 (3)	173 (13)	
	システム理化学科	昼 間 コース	235	15	970	249 (36) <5>	239 (35) <1>	267 (47) <8>	252 (40) <9>	1,007 (158) <23>	1,007 (158) <23>
工学部	建築社会基盤系学科	昼 間 コース	—	—	—	—	—	—	24 (2) <6>	24 (2) <6>	24 (2) <6>
	機械航空創造系学科	昼 間 コース	—	—	—	—	—	—	37 (3) <4>	37 (3) <4>	44 (3) <4>
		夜間主 コース	—	—	—	—	—	—	7 (0)	7 (0)	
	応用理化学系学科	昼 間 コース	—	—	—	—	—	—	31 (5) <6>	31 (5) <6>	31 (5) <6>
	情報電子工学系学科	昼 間 コース	—	—	—	—	—	—	73 (4) <6>	73 (4) <6>	82 (5) <6>
		夜間主 コース	—	—	—	—	—	—	9 (1)	9 (1)	
小 計		昼 間 コース	560	40	2,320	582 (69) <13>	571 (80) <10>	620 (85) <18>	765 (103) <47>	2,538 (337) <88>	
		夜間主 コース	40		160	41 (1)	42 (5)	45 (4)	61 (4)	189 (14)	
合 計			600	40	2,480	623 (70) <13>	613 (85) <10>	665 (89) <18>	826 (107) <47>	2,727 (351) <88>	

(注) () 内の数字は女子で内数・< > 内の数字は留学生で内数

(注) 平成31年4月 学部改組

大学院工学研究科

(令和4年5月1日現在)

専 攻	入学 定員	総定員	現 員				
			1年次	2年次	3年次	計	
博士前期課程	環境創生工学系専攻	73	146	92 (14) <7>	83 (16) <6>	—	175 (30) <13>
	生産システム工学系専攻	84	168	84 (9) <2>	86 (6) <2>	—	170 (15) <4>
	情報電子工学系専攻	67	134	78 (5) <14>	81 (7) <12>	—	159 (12) <26>
	小 計	224	448	254 (28) <23>	250 (29) <20>	—	504 (57) <43>
博士後期課程	工 学 専 攻	15	45	22 (5) <13>	20 (1) <13>	30 (8) <19>	72 (14) <45>
	小 計	15	45	22 (5) <13>	20 (1) <13>	30 (8) <19>	72 (14) <45>
合 計		239	493	276 (33) <36>	270 (30) <33>	30 (8) <19>	576 (71) <88>

(注) () 内の数字は女子で内数・< > 内の数字は留学生で内数

(注) この他に25名が在籍【科目等履修生5名(うち特別職講学生0名)、研究生20名(うち特別研究学生6名)】

1 大学概要

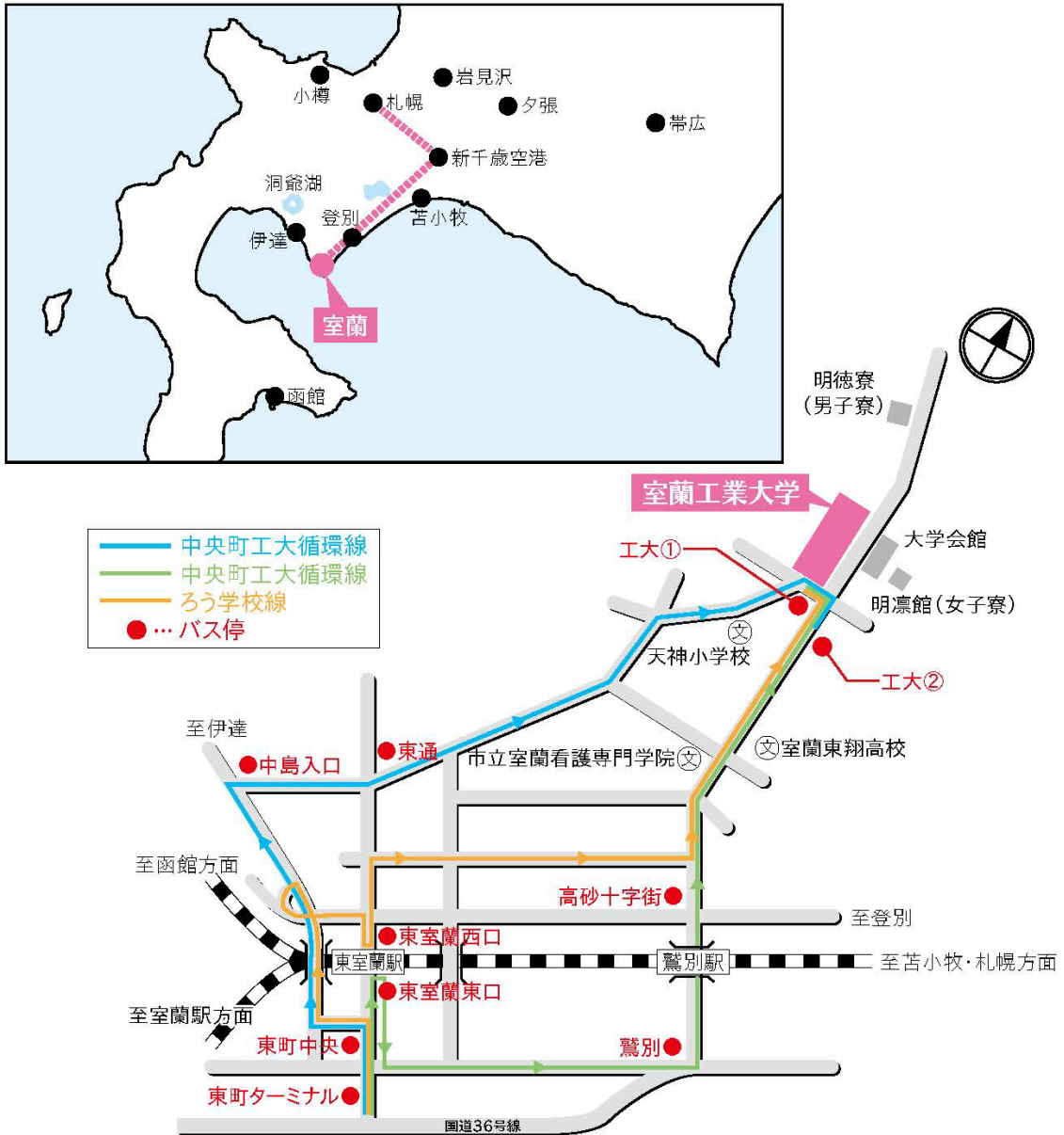
キャンパスマップ

■ キャンパス配置図



1 大学概要

アクセスマップ



アクセス

JR 札幌駅	JR特急列車	JR 東室蘭駅	バス	室蘭工業大学
	約1時間30分		約20分	
新千歳空港	高速バス		タクシー	
	約1時間50分		約10分	
	JR南千歳駅乗換			
	約1時間			
	高速バス			
	約1時間30分			

2 環境に関する基本方針

室蘭工業大学は、近くに支笏洞爺国立公園を擁し、ハヤブサが生息する地球岬やカタクリの自生地として知られる室蘭（鷲別）岳など、豊かな自然環境に恵まれた地域に位置します。

本学は「創造的な科学技術で夢をかたちに」という基本理念のもとに、自然を慈しみ、持続可能な循環型社会の構築を目指して、科学技術と人間・社会・自然の調和を追求する創造的な教育研究を行います。

〈方針〉

室蘭工業大学は、地球環境と研究の調和を追求し、学生、教職員、地域住民との協力により、地球環境を守る教育研究活動を推進します。

1. 循環型社会の構築を目指し、技術者倫理教育を積極的に実施し、社会的責任を自覚する人材を養成します。
2. 循環型社会を担う人材を養成するために、環境教育と環境活動を積極的に展開します。
3. 循環型社会の実現を目指し、環境マネジメントシステムの持続的、かつ継続的な改善を図ります。
4. 学生、教職員、並びに地域住民の環境意識を高め、地球環境の保全・改善活動に努めます。
5. 環境保全に関する法律、法規、規則、協定等を順守し、地球環境の維持・改善に努めます。
6. 環境に関する基本方針と環境活動をホームページに公開し、学生、教職員をはじめ、地域住民や地域社会へ公表します。

室蘭工業大学は、環境に関する基本方針を達成するために環境目的・目標を設定し学生、教職員、及び地域住民と協力して環境改善活動を展開し、地球環境の維持・保全・改善に努めます。

3 環境マネジメントシステム

3-1 北海道環境マネジメントシステムスタンダードの継続的認証取得

室蘭工業大学は、平成20年3月19日に、北海道における環境保全活動の取組と経営の安定を支援するためにつくられた環境規格である「北海道環境マネジメントシステムスタンダード（HES）」ステップ1の認証を取得、翌年平成21年3月23日にステップ2に移行し（※1）、以後継続して認証を取得し続けています。

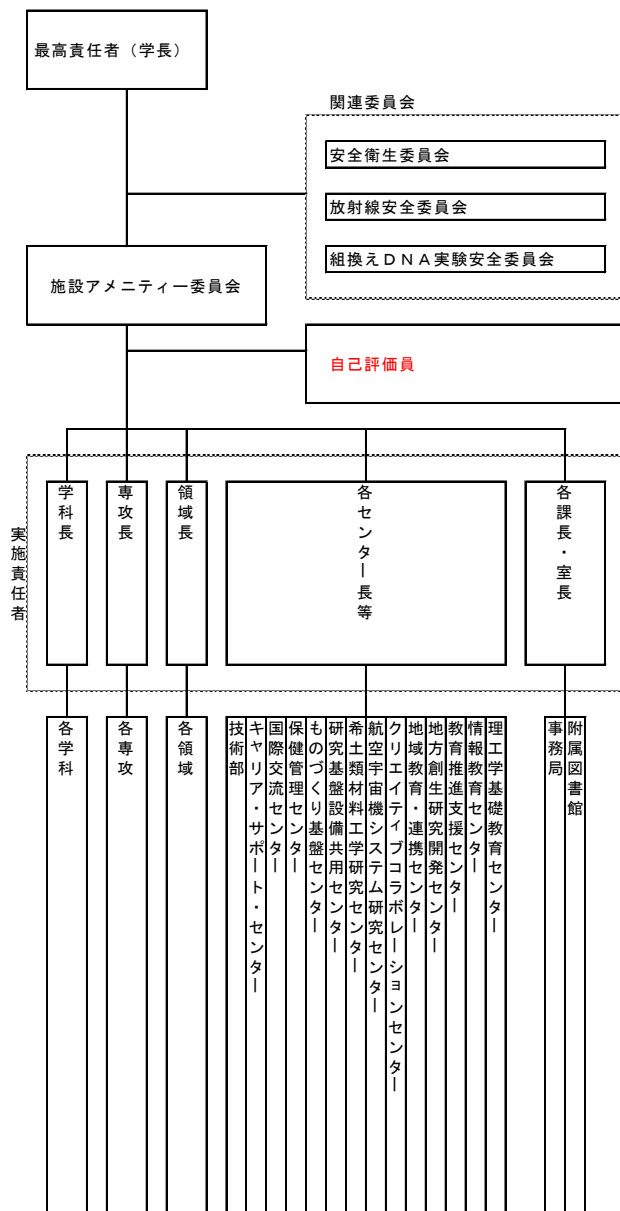


本学ではこの規格に則った環境マネジメントマニュアルを作成し、これを基に環境改善活動を継続しています。

- ※1
- ステップ1 環境問題についての取組が初めての組織向け。
- ステップ2 何らかの形で環境問題に取り組んでいる、又は将来ISO14001の認証取得を目指す組織向け。

3-2 環境マネジメントシステム体制図

室蘭工業大学では、最高責任者のもと、以下の体制で環境改善活動を行っています。



4 環境配慮実施計画

4-1 エネルギー使用量の削減

- ・エネルギー管理標準（※1）を制定（省エネルギーの数値目標を設定）
- ・エネルギー使用量原単位（※2）を前年度比1%削減
- ・省エネルギー型照明設備・空調設備等の導入を推進
- ・照明の適正化（照度、点灯時間の適正管理）を行う
- ・空調の適温化を行う
- ・本学HPで電力使用量をみえる化する（省電力の啓蒙）
- ・省エネパトロールの実施（講義室の照明・空調の適正使用の確認）

※1 エネルギー使用設備のエネルギー使用合理化のための管理要領（運転管理、計測・記録、保守・点検）を定めた「管理マニュアル」

※2 その年のエネルギー使用量の原油換算値を校舎の延床面積で割った値

4-2 水使用量の節減

- ・節水型の家電製品・水洗トイレ等の導入
- ・蛇口に節水こまを設置
- ・トイレの蛇口を人感センサー式に更新

4-3 一般・産業廃棄物の管理

- ・一般ゴミの分別の徹底
- ・教育研究活動で発生する産業廃棄物を一般廃棄物と分離回収
- ・実験廃液、廃試薬の回収処理
- ・廃棄物の排出量の管理

4-4 紙使用量の削減、リサイクルの推進

- ・ペーパーレス化の推進
- ・裏紙の利用
- ・両面印刷・両面コピーに努める

4-5 HES活動に関連する教育・研究活動の推進

- ・全教職員、全学生向けに定期的に環境関連の講演会を行う

5 環境負荷実績

5-1 エネルギー使用量

本学の年間エネルギー使用量は原油換算（※1）で2,000klを超えており、「第二種エネルギー管理指定工場」（※2）として国に指定されています。

その使用量は電力、ガス、重油、灯油の順で多く、過去5年間のそれぞれの使用量は下のとおりです。

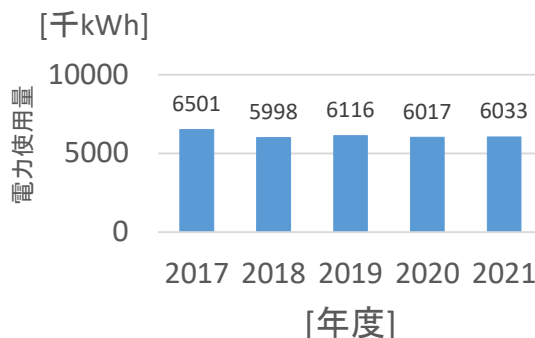
※1 エネルギー使用量（電気・ガス・重油・灯油）に換算係数を乗じて計算した熱量[GJ]を合算した合計使用熱量に原油換算係数0.0258[kl/GJ]を乗じたもの

※2 事業者が設置している工場等（大学では団地）のうち、年間エネルギー使用量の原油換算値が1,500kl以上3,000kl未満の工場等。エネルギー管理員等の選任や国に中長期計画書、定期報告書を毎年提出する義務がある

（1）電力使用量

2021年度の電力使用量は前年度と比較して0.3%の増加となりました。理由としては年度内に実験・研究が活発に行われたことにより使用電力量が増加したと考えられます。

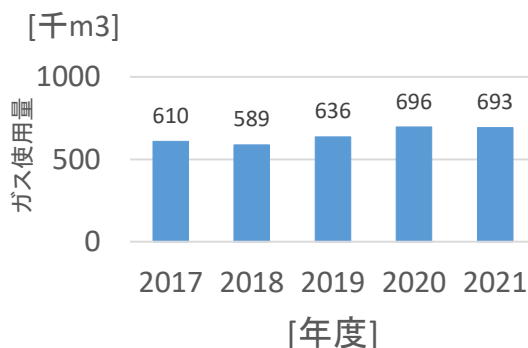
過去5年の推移をみると若干減少傾向にあります。



（2）ガス使用量

2021年度のガス使用量は前年度と比較して0.4%の減少となりました。理由として年度途中より附属図書館の改修が始まったことにより暖房燃料消費量が少なくなったことが考えられます。

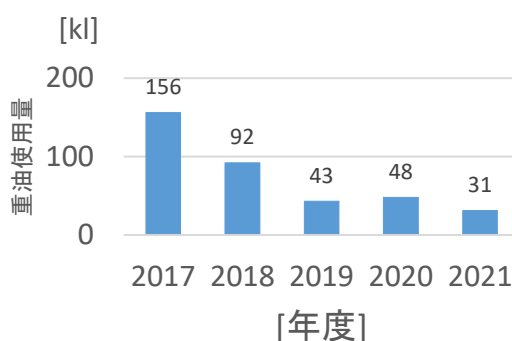
過去5年の推移を見ると増加傾向にあります。



（3）重油使用量

2021年度の重油使用量は前年度と比較して35.4%の減少となりました。理由として年度途中より附属図書館の改修が始まった事により冬場の消費電力が抑えられ、ピークカット用自家発電機の燃料消費量が少なくなったことが考えられます。

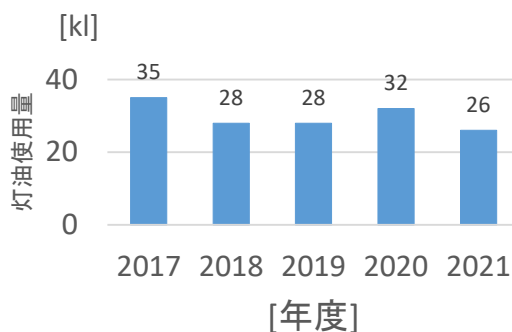
過去5年の推移を見ると大幅な減少傾向にあります。



（4）灯油使用量

2021年度の灯油使用量は前年度と比較して18.8%の減少となりました。理由としてガス・重油と同様、年度途中より附属図書館の改修が始まったことにより暖房燃料消費量が少なくなったことが考えられます。

過去5年の推移をみると、若干減少傾向にあります。

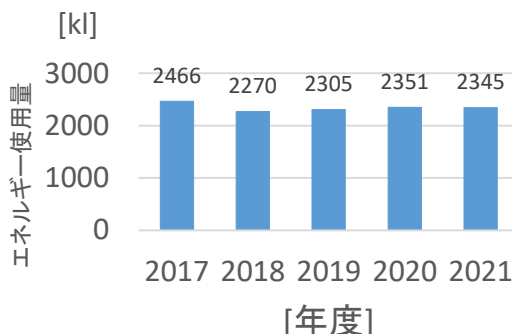


5 環境負荷実績

(5) エネルギー総使用量（原油換算値）

2021年度のエネルギー使用量（(1) から(4)の合計）の原油換算値は前年度と比較して0.3%減少しました。理由として年度途中より附属図書館の改修が始まったことにより暖房燃料消費量が少なくなったことが考えられます。

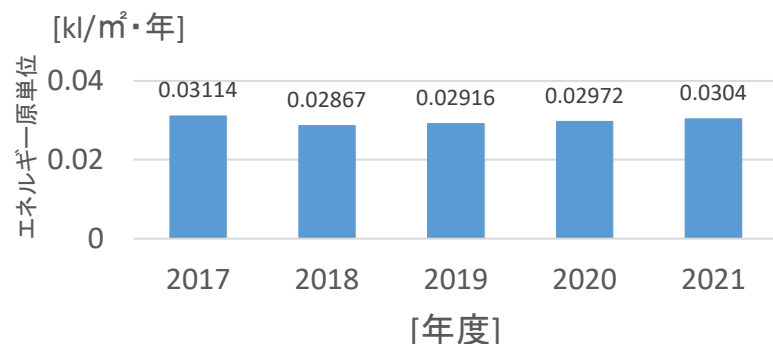
過去5年の推移を見ると若干減少傾向にあります。



5-2 エネルギー原単位

エネルギー原単位とは、その年のエネルギー使用量の原油換算値を校舎の延床面積で割った値となります。

過去5年間の推移をみると、相乗平均原単位変化（※1）が99.4%（電気需要平準化原単位変化99.4%）で推移しており、経済産業省で公表している「工場・事業場における省エネ法定報告に基づく事業者クラス分け評価（※2）の結果」に示すとおり、2021年度はA評価となりました。



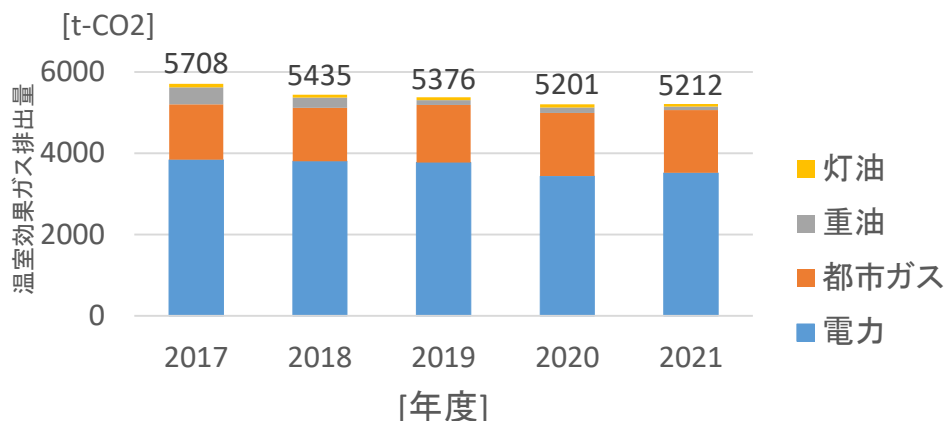
※1 各年の前年度比を掛けた数の累乗根
※2 省エネの定期報告書の内容によりS(優良事業者)・A(更なる努力が期待される事業者)・B(停滞事業者)・C(要注意事業者)の4段階にクラス分けして、クラスに応じてメリハリのある対応を実施するもの

5-3 温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量は5-1のエネルギー使用量に種類ごとの排出係数をかけた値となります。

2021年度は、前年度より0.2%増加しました。理由として電力のCO2排出係数が昨年より増加し、他のエネルギーの排出量の減少分より電気での増加分が上回ったためと考えられます。

過去5年間の推移をみると若干の減少傾向にあります。

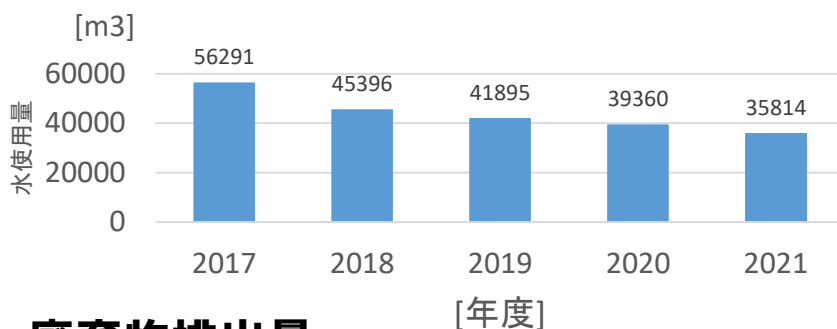


5 環境負荷実績

5-4 水使用量

2021年度の水使用量は、前年度より9.0%減少しました。理由として附属図書館の改修工事により水の使用量が減少したと考えられます。

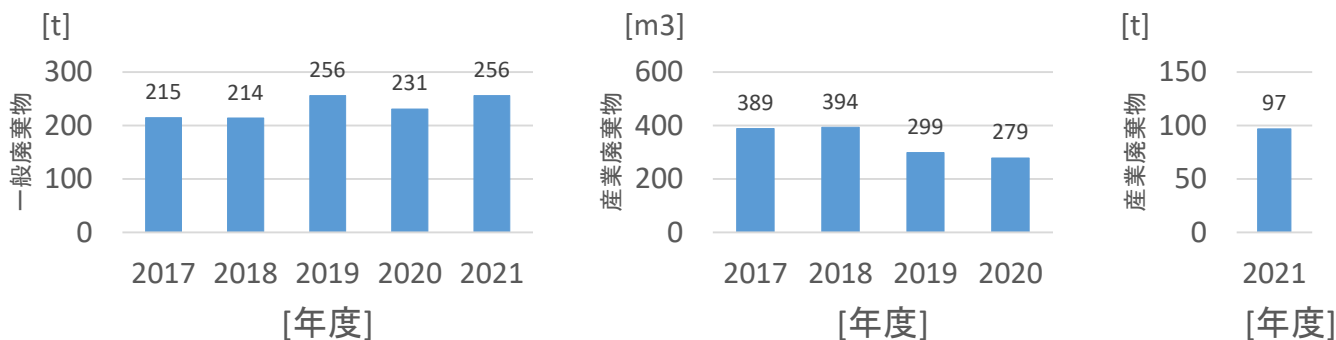
過去5年間の推移をみると、2017年度をピークに毎年減少しています。



5-5 廃棄物排出量

2021年度の廃棄物使用量は、一般廃棄物が前年度より10.8%増加しました。理由として附属図書館の改修工事による物品の廃棄が増加したためと考えられます。産業廃棄物については2021年度より集計方法が変更になりました。

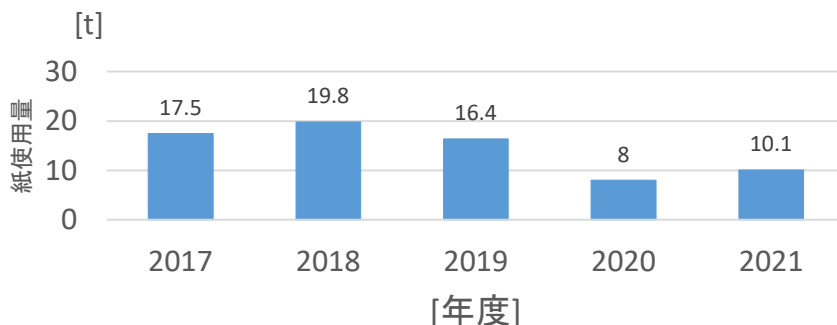
過去5年間の推移をみると、一般廃棄物は増減を繰り返しながらもほぼ横ばいで産業廃棄物は2018年度をピークに減少しています。



5-6 紙購入量(OA用紙)

2021年度の紙使用量は、前年度より26.3%増加しました。理由として新型コロナウイルス感染症拡大防止のための大学の行動指針（BCP）の変更により2020年度は遠隔授業が主体だったのが2021年度は対面と遠隔のハイブリッド授業が主体となったため大学に直接来る学生数が増加したためと考えられます。

過去5年間の推移をみると、2019年度までは増減を繰り返しながらもほぼ横ばいで2020年度に大きく減少しています。



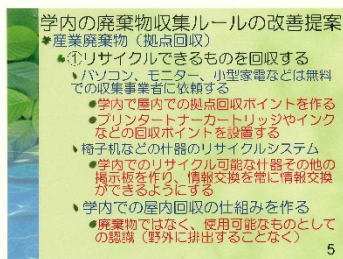
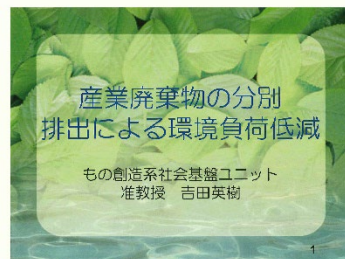
6 環境配慮活動

6-1 HES講演会の実施

室蘭工業大学ではHES活動における教育面の充実の一つとして、全教職員と全学生を対象にした講演会を2022年3月8日（火）に行いました。

今回は産業廃棄物をテーマに取り上げ、本学のもの創造系領域の吉田英樹先生に環境負荷低減についてご講演頂きました。

学内で排出されている廃棄物の状況、コスト・排出の問題点、および排出ルールの改善を提起して頂き、教職員と学生に対して環境負荷低減に関する理解を深める内容となりました。



6-2 環境に配慮した施設整備の実施

大学会館カフェスペース・多目的ホール改修

室蘭工業大学では大学会館内のカフェスペースおよび多目的ホール（改修面積：467㎡）の改修を行い、照明器具をLED照明器具に改修しました。

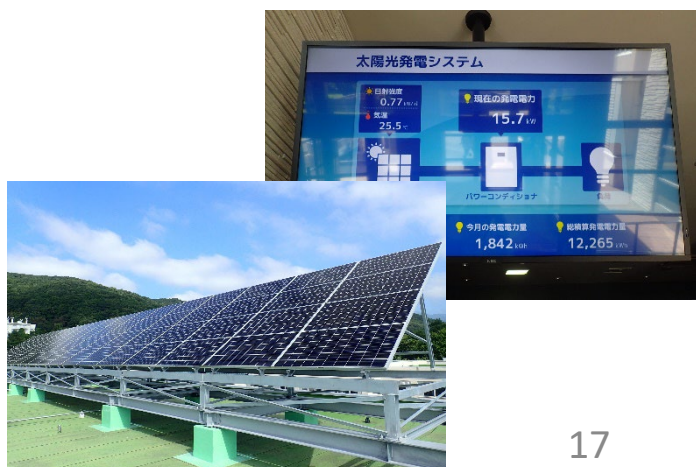
これにより改修エリアの消費電力が約30%削減され、温室効果ガス排出量の削減、および古い蛍光管の処分費を削減することができました。



教育・研究1号館太陽光発電設備設置

室蘭工業大学では環境配慮への一環として、教育・研究1号館に20kWの太陽光発電設備を設置しました。これにより、試算では年間約25千kWhの発電量が見込めます（年間使用電力量の0.5%分）。また、温室効果ガスを年間約7.8t-CO₂削減することが見込めます。

今後も太陽光発電設備の設置を目指していきます。



7 地域との連携

室蘭工業大学では、環境改善活動として産学官連携、地域教育（社会学習・教育事業支援、社会人教育）等を行い、地域との連携を推進することで、地域社会の環境改善活動に貢献しています。

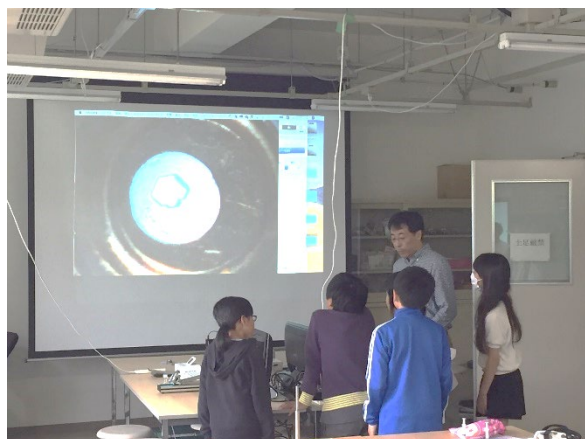
7-1 公開講座等の実施について

室蘭工業大学では、地域住民の皆様に学習の機会を提供することを目的として公開講座、サイエンススクール、大学訪問を行っています。また、高校生の皆さんの学習目標や進路選択の一助としていただくことを目的に、本学教員が高等学校へ出向き、理工系大学ならではのテーマで出前講義を実施しています。2021年度（令和3年度）は環境関連の講義を以下の通り開催しました。

令和3年度環境関連出前講義実施状況

開催日	講座・講義名	講師	対象	参加人数	備考
令和3年 7月20日	これからの建築に求められること	濱 幸雄	高校生	11	
令和3年 8月26日	バイオマスエンジン	大石 義彦	高校生	9	オンラインで開催
令和3年 9月16日	畜産における消石灰散布の必要性に関する講義	山中 真也	高校生	35	オンラインで開催
令和3年 9月16日	持続可能な循環社会を実現するための農業エネルギーの創造	大石 義彦	高校生	9	オンラインで開催
令和3年 10月21日	雪冷熱エネルギーの歴史と活用について	大石 義彦	高校生	9	オンラインで開催
令和3年 11月9日	形状記憶合金エンジンの作製と体験	葛谷 俊博	高校生	25	
令和3年 11月9日	お湯と水で発電	関根 ちひろ	高校生	62	
令和3年 12月9日	持続可能性に関わる講義	大石 義彦	高校生	9	
令和3年 12月14日	これからの建築に求められるもの2021	濱 幸雄	高校生	22	
令和3年 12月20日	建物の換気について	栗原 浩平	高校生	75	

7 地域との連携



7-2 環境に関する他団体の委員等

室蘭工業大学に在籍する教職員は、以下の通り環境に関連する他団体の委員等として地域に対して貢献しています。

委員等名	他団体名	氏名
札幌市地震被害想定検討委員会委員	札幌市	有村 幹治
北海道地方鉱山保安協議会委員	経済産業省 北海道産業保安監督部	板倉 賢一
都市計画審議会委員	室蘭市	市村 恒士
粉じん対策指導委員	厚生労働省北海道労働局	大平 勇一
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	川村 志麻
室蘭市都市計画審議会委員	室蘭市	
北海道認定リサイクル製品認定懇談会委員	北海道	
北海道国土利用計画審議会 委員	北海道	
NEDO技術委員	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	神田 康晴
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	岸 徳光

7 地域との連携

委員等名	他団体名	氏名
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	木村 克俊
苫小牧西港区漂砂機構検討会委員	北海道開発局 室蘭開発建設部	
技術委員会委員長	一般社団法人寒地港湾空港技術研究センター	
技術基準への適合性確認制度に関する登録確認機関 確認員	一般社団法人寒地港湾空港技術研究センター	
大島漁港建設環境検討委員会委員長	一般社団法人寒地港湾技術研究センター	
室蘭市地方港湾審議会委員	室蘭市	
室蘭市防災教育に関わる講師	室蘭市	木元 浩一
環境経済・経営研究所 招聘研究員	早稲田大学	
支部環境工学専門委員会委員	一般社団法人日本建築学会北海道支部	栗原 浩平
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	木幡 行宏
北海道新幹線、新函館北斗・札幌間 自然由来重金属等掘削土対策検討委員会 委員兼幹事	北海道環境保全技術協会	
循環資源利用促進設備整備費補助事業評価意見聴取会評価委員	北海道	
室蘭市大規模盛土造成地変動予測調査業務アドバイザー	室蘭市	
北海道開発局道路防災有識者	北海道開発局	小室 雅人
都市計画審議会委員	登別市	
令和3年度経済産業省委託事業「低レベル放射線廃棄物の処分に関する技術開発における有識者検討委員会」委員	経済産業省	清水 一道
環境審議会委員	室蘭市	永井 真也
環境省請負業務「令和2年度気候変動適応における広域アクションプラン策定事業北海道地域業務」に関する「気候変動適応北海道広域協議会及び分科会」アドバイザー	環境省	中津川 誠
鷗川・沙流川（二風谷ダム湖含む）河川水辺の国勢調査アドバイザー	北海道開発局	
平取ダムモニタリング部会委員	北海道開発局 室蘭開発建設部	
技術審査会委員	一般財団法人北海道河川財団	
沙流川水系河川整備計画流域懇談会委員	胆振総合振興局	中野 博人
環境審議会委員	室蘭市	
地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム国内領域別評価会委員	国立研究開発法人科学技術振興機構	船水 尚行
共同研究員	大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所	
審査証明委員会委員長	公益財団法人日本下水道新技術機構	
技術委員会委員	公益財団法人日本下水道新技術機構	
PCB廃棄物処理事業監視円卓会議 委員	北海道	吉田 英樹
ごみ処理恵庭モデル検討会委員	恵庭市	

8 法令関係、環境規制への対応

8-1 環境関係法令の遵守について

室蘭工業大学では下記の環境に関する法令、規則等を遵守しています。

区 分	法 律
環境配慮活動関連	環境基本法、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）
エネルギー関連	エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）
温暖化防止関連	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）、地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）
化学物質関連	消防法、毒物及び劇物取締法、労働安全衛生法、じん灰法、高圧ガス保安法
公害防止関連	騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法
建築物関連	建築物における衛生的環境の確保に関する法律（ビル管法）、水道法、下水道法
廃棄物関連	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施工規則、北海道循環型社会形成の推進に関する条例、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（PCB特措法）、特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）
放射性同位元素関連	放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律、国際規制物質の使用等に関する規則
学校関連	学校保健安全法

[発行年月]
2023年3月

室蘭工業大学施設課
〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号
TEL 0143-46-5073 FAX 0143-46-5083
Mail:simanage@mmm.muroran-it.ac.jp

